

請願第 3 号

おたふくかぜワクチンの公費助成に関する請願

令和5年 9 月 1 日

伊勢市議会議長 品川 幸久 様

住所 津市観音寺町 429-13

氏名 三重県保険医協会

会長 宮崎 智徳

紹介議員

楠木 宏彦

川口 浩



請願趣旨

現在、乳幼児の予防接種において「おたふくかぜワクチン」は任意接種のため、接種費用は自費となります。おたふくかぜ(流行性耳下腺炎、ムンプス)は、軽い病気と思われがちですが、実際には髄膜炎や脳炎・脳症などの神経の合併症を伴うこともあり、合併症により聴覚障害(難聴)などの後遺症を残すこともあります。また、稀に死に至る場合もある疾患です。

おたふくかぜワクチンは、おたふくかぜによる乳幼児の死亡・後遺症のリスクを軽減させる重要なワクチンですが、現在日本では定期接種となっておらず、経済的理由で接種できない乳幼児も多く、また、おたふくかぜの疾患そのものの危険性を認識できていない保護者も多くいると思われます。

おたふくかぜワクチンは、その効果と安全性が十分に確認されているワクチンであり、日本小児科学会でも接種を推奨されています。ワクチン接種により、おたふくかぜの流行や罹患率が減少し、おたふくかぜに罹患した際の後遺症の一つであるムンプス難聴のリスクを大幅に軽減することができます。

おたふくかぜワクチンを1回定期接種している国ではおたふくかぜの発症者数は88%減少し、2回定期接種している国では99%減少しているというデータも存在します。接種率が向上することでおたふくかぜの流行は小さくなり、脳炎・脳症、難聴などの重篤な合併症も少なくなり、結果乳幼児の医療費の削減となります。また、乳幼児の罹患により家庭内感染も起こりやすいことから、ワクチン接種で乳幼児の感染を防ぐことで、乳幼児以外の医療費削減にもつながります。

本来ならば、接種費用を気にせずに誰もが必要なワクチンを無料で接種できるように、おたふくかぜワクチンも国が定期接種とするべきですが、日本はワクチン後進国であり国の対応を待つ期間、自治体としておたふくかぜワクチン接種の費用を公費助成いただくことを求めます。

請願事項

おたふくかぜワクチンが定期接種となり無料で接種できるまで、任意接種であるおたふくかぜワクチンの費用を助成していただくよう請願します。